

（※この案を元に講師との打ち合わせを行ってください、プログラム案を変更することは可能です。）

授業のねらい

- 印染体験を通して、印染でしか表現できない色の良さや魅力を感じ取ることができる。
- 染色文化が社会とどう関わっているか、現在に至るまでなぜ大切にされ、残されてきたかについて考えることができる。

本プログラムに対する企業の思い

○有限会社やなわけ染色 柳分 良司 氏

「印染」は平安時代から続いている技法であり、法被や暖簾、神社ののぼりなどに使われています。印刷技術が発達してもなお、「印染」が今日まで続いているのは、人が何かを表現したい、何かを共有したいときに、目に見える物を残すためでもあります。例えば、お祭りやイベント時に使用する法被の「印染」では、背中の紋や腰柄を染め抜くことで、絆の証となります。やなわけ染色の役割は、「印染」を通して、日本の伝統文化の継承と発展に寄与し、人々に喜びと誇りを提供することだと考えています。この授業では実際に「印染」を体験し、印染でしか表現できない色の良さや、印染に携わる人の思いを感じ取ってもらいたいと思います。また、日本の伝統文化を少しでも大切にしていきたいという気持ちをもってもらえると嬉しいです。



専門家からのアドバイス

○岡山県立大学 デザイン学部工芸工業デザイン学科 難波久美子 先生、渡邊操 先生

日本には伝統工芸や文化が数多く存在しています。中でも染色文化は日本独自の発展を遂げてきました。材料や道具は、その時代に身近に存在していたものが使用され、思いを込めた図案（デザイン）や色彩に染められています。現代においても、身の回りを見渡せば、多くのものが伝統とつながって私たちの生活を彩っています。受け継がれてきた日本独自の美意識に触れることにより、今の時代だからこその価値を見だし、伝統文化への理解と継承について、身体と頭で考える授業を期待します。生徒のみなさんには、染色の魅力や専門家の巧みな手技、そして先人と自身を繋ぐことができるデザインの持つ力に気づいてもらいたいですね。



授業の流れ（時間）

黒字：G企業

青字：C生徒

緑字：T教師

前時までに、印染をするためのロゴをデザインする授業を行う。

○めあて、活動を知り講師の紹介を聞く

T：今日の学習のめあてを発表し、講師を紹介する。

（例）染色の専門家のお話をきいて、印染の魅力や染色文化がなぜ大切にされ、残されてきたのかについて考えよう。

G：「パワーポイント」を使用して、企業紹介・自己紹介をする。

なぜ、印染について勉強するのかを伝える。



○日本の染色文化や印染の歴史について学ぶ

G：印染の例を示し、印染が利用されているものについて、生徒にたずねる。

C：発表する。

（例）法被の背中の紋、のれん、神社ののぼり、横断幕など

G：印染の歴史や、印染に込められている意味について説明する。



○ロゴの染色体験

C：前時までにデザインしたロゴを染色する。

T：準備物を確認する。

G：染色のポイントを説明する。

(例) 青、黄、赤、黒をベースに染色する。

薄くしたい場合は水で薄める。水をつけすぎると滲むので注意する。

C：ロゴがデザインされた布を塗っていく。

T：色を塗る際の注意点を伝える。

(例) 絵の具とは違うので、作業に取り掛かる前に、新聞紙等に試し塗りをして、筆につける染料を調整する。



○印染体験を通して、日本の伝統文化の魅力について考える

T：印染体験を通して、感じたことや気付いたことなどについて生徒にたずねる。

C：発表する。

(例) 染色したばかりの色と染色後の色の違いがあることに気づくことができ面白かった。

初めて印染を体験したが、染料の色が鮮やかで、本物の色に触れられた気がした。

G：日本の伝統文化の魅力に考えさせる。

C：発表する。

(例) 外国にはない古い歴史や文化を感じさせてくれる。

T：質疑応答や生徒の感想を聞き、本時のまとめを行う。

